

要配慮者利用施設の避難確保計画 作成支援資料

令和5年2月
函館市

利用者の命を守る3つのポイント

1. 施設の危険性を知る
2. 避難先（立ち退き，屋内安全確保）を決める
3. 避難開始のタイミングを決める

ハザードマップの確認

命を守る
1
ポイント

確認方法

- ① 函館市トップページからハザードマップをクリック
- ② ハザードマップでサイドメニューから表示したい情報に☑
- ③ 画面で貴施設の津波、洪水、土砂災害の災害リスクを確認してください

▶ ハザードマップ
をクリック①



▶ クリックすると表示情報
画面が開くので表示したい
情報に☑ ②



▶ 表示された情報から災害リスクを把握 ③

- ・ 凡例を表示して浸水深などを確認 ?
- ・ 住所検索機能もあります 🔍

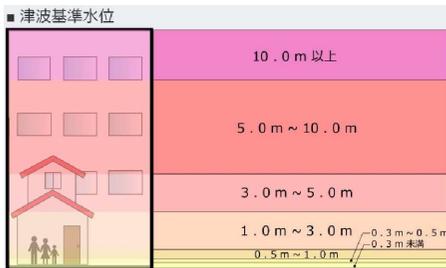


危険性の確認

命を守る
ポイント 1

ハザードマップで施設の浸水深など危険性を確認してください。

○津波



津波は、建物が倒壊するおそれがあるため、水位にかかわらず、原則として、浸水想定区域外へ立退き避難。

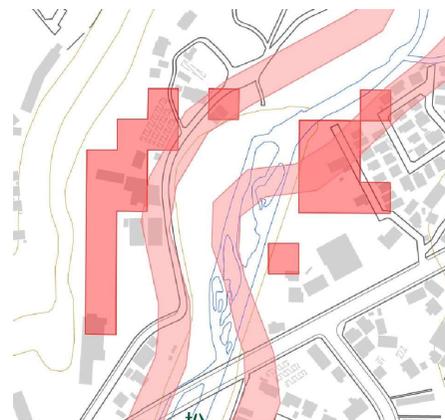
津波避難ビルなどへ避難（垂直避難）のときは、基準水位より高いところへ避難。

○洪水



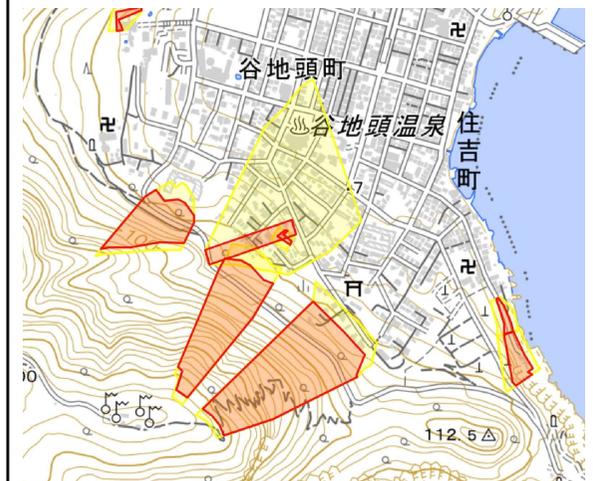
浸水深を確認し、立退き避難か、屋内安全確保かを判断。

家屋倒壊等氾濫想定区域



建物が倒壊するおそれがあるため、原則として、氾濫想定区域外へ立退き避難。

○土砂



建物が倒壊するおそれがあるため、原則として、警戒区域外へ立退き避難。

避難先を決める

命を守る
ポイント 2



ハザードマップで施設の危険性を確認しましょう



○避難先の施設についても、ハザードマップで危険性を確認する。

○安全な避難先と避難経路を複数決めておく。

○市が指定する避難場所は災害の種類により使用できないこともある。

○避難経路を実際に歩いて、危険箇所や避難に必要な時間などを確認する。

段階的に発表される防災情報と主な行動（例）

警戒レベル1

- 気象情報等
 - ・ 早期注意情報（警報級の可能性）

- 施設の行動
 - ・ 気象情報等の収集



- 川の水位
 - ・ 川の防災情報（国土交通省）
 - ・ キキクル（気象庁）



入手する防災情報

翌日早朝にかけて警報級の可能性[中]となるケース

種別	1日	2日	3日	4日	5日	6日
	明け方まで 18-6	朝～夜遅く 6-24				
大雨	[中]	-	-	-	-	-
大雪	-	-	-	-	-	-
暴風(暴風警)	-	-	-	-	-	-
波浪	-	-	-	-	-	-



次の日に警報級の可能性[高]となるケース

種別	1日	2日	3日	4日	5日	6日
	明け方まで 18-6	朝～夜遅く 6-24				
大雨	-	[高]	-	-	-	-
大雪	-	-	-	-	-	-
暴風(暴風警)	-	[高]	-	-	-	-
波浪	-	[高]	-	-	-	-



[高]のときは、気象警報等で詳細な時間帯などを確認する。

気象警報等

〇〇県気象情報

早期注意情報



※気象庁ホームページ

- ・ 遠出を控えるなど、職員が心構えを持てた。
- ・ 警報が発表される可能性は高くはないが、発表されるかもという危機意識をもつことができた。
- ・ 警報発表時に円滑な対応ができるよう、当直の職員に情報提供をした。
- ・ 休日でもスムーズに参集できるよう、職員の所在を確認した。

- ・ 職員に対し、自宅待機を促したため、警報発表時に体制を迅速に整えることができた。
- ・ 勤務時間内に周知を行い、夜間でもすぐに職員が参集できるようにした。
- ・ 夜間の出勤方法を考えておくなど、警報発表に備えることができた。

主な行動（例）

- ・ 避難確保計画の確認
- ・ ハザードマップ、避難先、避難経路
- ・ 避難行動の目安となる防災気象情報
- ・ 市町村からの避難情報等の伝達方法
- ・ 役割分担、避難に必要な資器材、備蓄品の確認



段階的に発表される防災情報と主な行動（例）

命を守る
ポイント 3

警戒レベル2

- 気象情報等
 - ・ 大雨注意報
 - ・ 洪水注意報

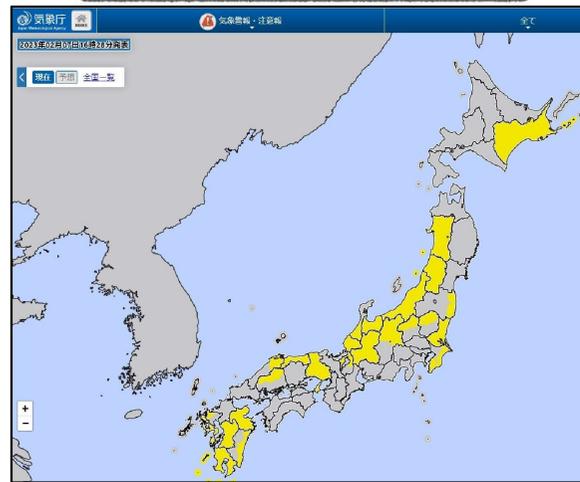
- 施設の行動
 - ・ 気象情報収集
 - ・ 避難体制整備
 - ・ 避難先情報の収集



入手する防災情報

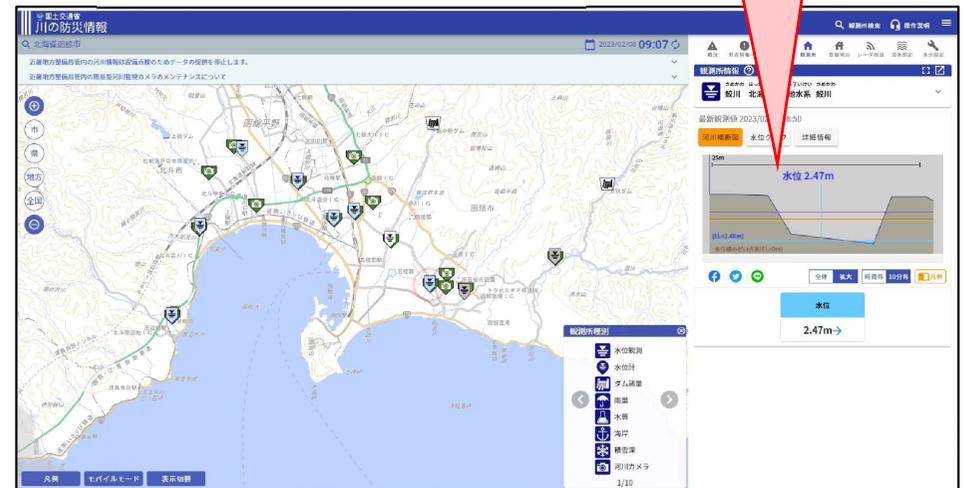
気象庁ホームページ

気象警報 注意報



国土交通省のホームページ

川の防災情報



- ・ 氾濫危険水位
- ・ 避難判断水位
- ・ 氾濫注意水位

- 川の水位
 - ・ 川の防災情報 (国土交通省)
 - ・ キキクル(気象庁)



主な行動（例）

- ・ 雨や水位の情報収集
- ・ 情報収集担当から施設責任者への報告
- ・ 事前休業や休校などの判断
- ・ 職員の召集など避難体制の整備
- ・ 避難先への連絡



氾濫注意水位に到達し、雨も降り続く見込みです。

職員を召集して、避難体制を整えてください。

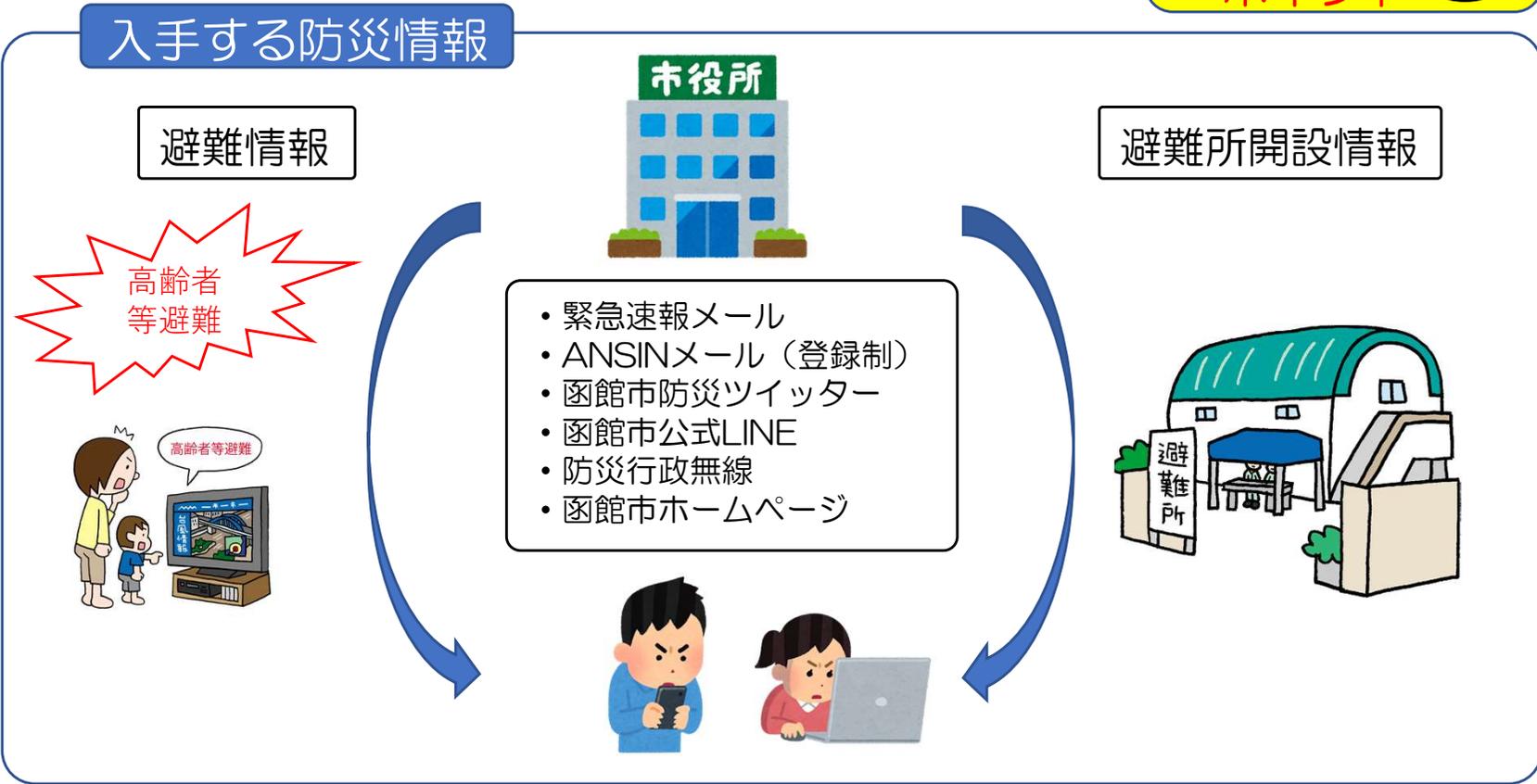
段階的に発表される防災情報と主な行動（例）

警戒レベル3

- 気象情報等
 - ・ 大雨警報 (土砂災害)
 - ・ 大雨警報 (浸水害)
 - ・ 洪水警報

- 避難情報
 - ・ 高齢者等避難

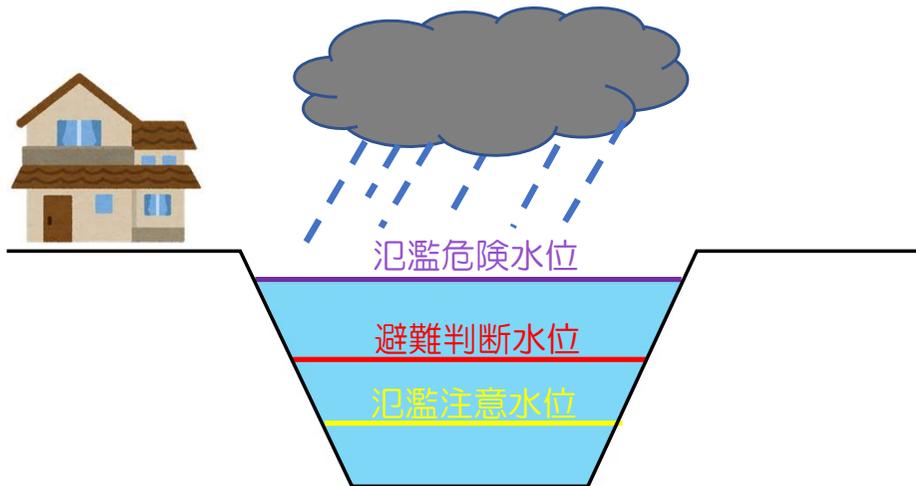
- 施設の行動
 - ・ 避難開始
- 



水位情報を知る

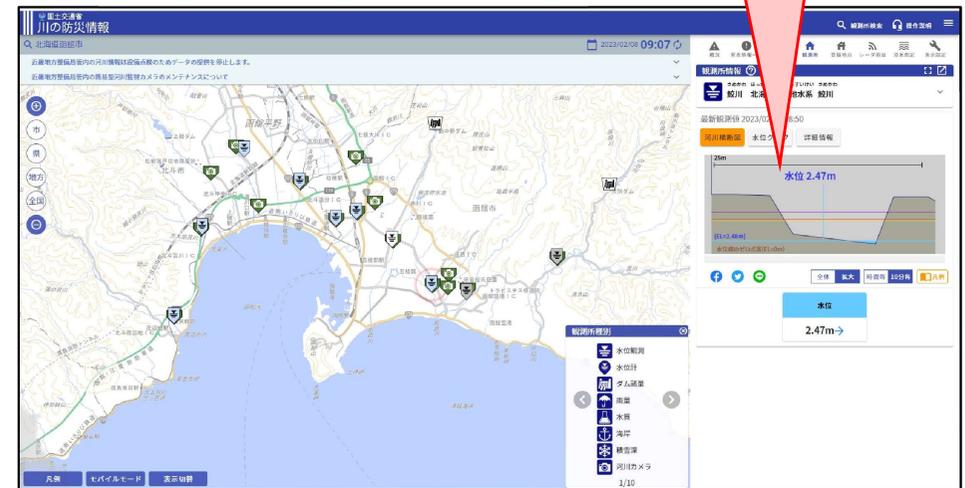
命を守る
ポイント 3

浸水想定の対象となる河川の水位から適切な避難のタイミングを判断



国土交通省のホームページ

川の防災情報



氾濫危険水位	警戒レベル4 避難指示発令の目安、居住者等の避難判断、相当の家屋浸水等の被害を生じる氾濫のおそれがある水位
避難判断水位	警戒レベル3 高齢者等避難発令の目安、河川の氾濫に関する居住者等への注意喚起となる水位
氾濫注意水位	警戒レベル2 河川の氾濫の発生を注意する水位

川の防災情報（国土交通省）から、次の河川について水位を確認することができます。

- ・松倉川
- ・鮫川
- ・石川
- ・常盤川
- ・久根別川

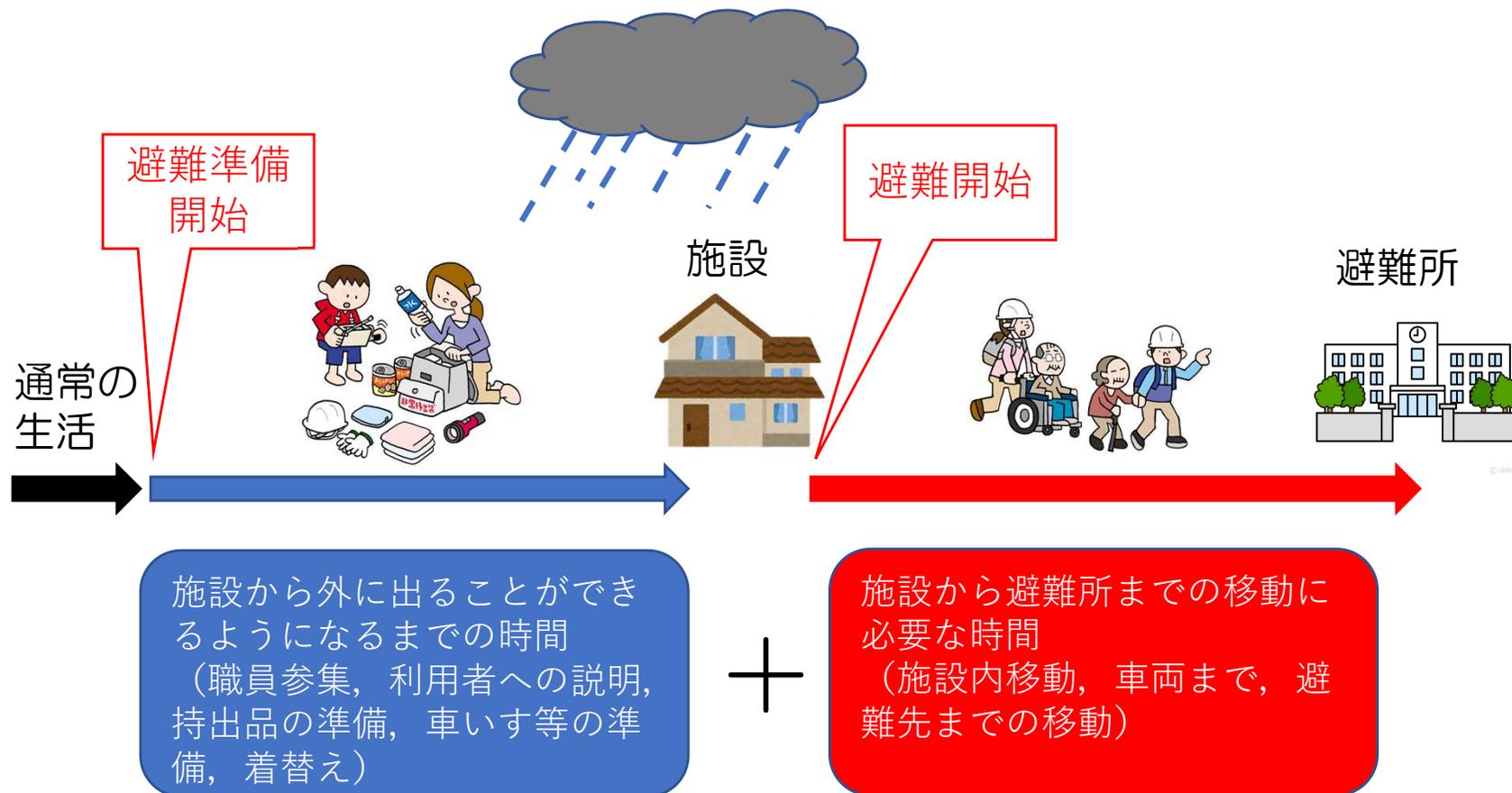


画像も確認できる

避難に必要な時間を知る

命を守る
ポイント 3

避難に必要な時間（避難準備＋移動）



- 浸水がはじまってからの立退き避難（水平避難）は危険。
- 避難開始のタイミングを判断するためには、避難に必要な時間を把握のうえ、関係者全員で共有しましょう。
- 避難訓練を実施して、避難確保計画の見直しを行いましょよう。

